

情報通信月間参加行事 報告書

行事 ID	C020	行事名	産官学民連携「江戸から東京へと受け継がれる映像コンテンツと地域の関係、ICTイノベーション」シンポジウム	
行事形式	シンポジウム	主催団体	(一社)映像情報メディア学会、研究・イノベーション学会、情報通信月間事務局、墨田区、IEEE TMC他	
開催日	07月25日		開催場所	すみだ北斎美術館
行事参加者数	会場参加18、オンライン56		WebサイトURL	http://www.s-nakahara.com/ir/

行事实施概要・アピール等

新型コロナ感染防止のため(1)日程を延期し(6/6→7/25)、(2)会場参加を定員の半数とした上でソーシャルディスタンスを考慮した座席配置し、(3)オンライン視聴での参加を併用した。

基調講演は人事異動等により鈴木事務次官→吉田局長→秋本局長と変わったが就任した週に新任の局長の講演ということで参加者から好評であった。

会場も墨田区の好意で「すみだ北斎美術館」というテーマに則した場所を使用することができた。

運営体制もICTとイノベーションという文理の学会が共同で取り組み産学官民の後援団体の協力を得ることによって個性豊かでバックグラウンドの異なる有識者を登壇者や参加者(東大 原島 博 特任教授、産学連携学会会長 群馬大 伊藤正実 教授、弁護士等)を配することができた。

本シンポジウムの企画・立案は昨年10月と新型コロナが発生する前だったが阪神淡路大震災からの5年以上に及ぶ自粛ムードから大きく落ち込んだ京都観光の復活劇とそれに寄与したデジタルアーカイブやi-modeを語った清水 宏一 初代京都市観光政策監 の講演は参加者に大きな感銘を与えwithコロナ時代の観光に大きな指針を与えた。

また、テレワークによる会議は視覚障害者には発言者の位置が不明で誰が話しているか分からない等の技術的な問題の指摘が障害者NPO STAND 伊藤 数子 理事長からあった。

本シンポジウムの主テーマはイノベーションは偏在する。秋葉原でアニメ等の産業が開花したのは偶然ではなく浮世絵や神田祭等の歴史や文化、派生した伝統産業と現代のICT技術の組合せの貢献が大きいという趣旨であったが、分野が異なる(大学、神社、浮世絵)登壇者から同意を得られた上、登壇者間、登壇者と墨田区産業観光部の協力促進も達成。

